



アジアの結核中蔓延8カ国より参加

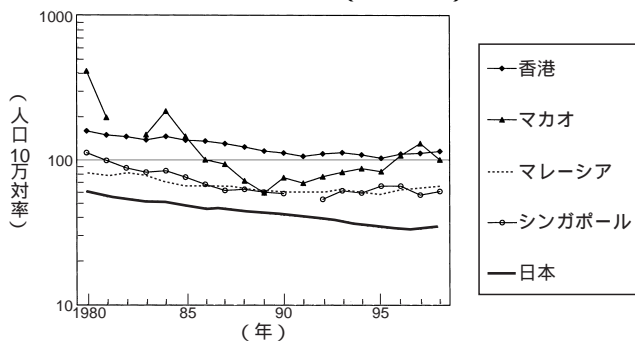
## IUATLDフォーラム

# 中蔓延国会議

5月13日 / 結核研究所

結核研究所国際協力部企画調査科  
山田紀男

図 罹患率の推移（全結核）



日本では結核罹患率減少の純化や近年の増加に転じた状況が問題となっています。アジアに目を向けると、シンガポール、香港など経済的に発展し保健システムも充実した国や地域でやはり罹患率減少の純化に直面しています（図）。このため、1999年のIUATLD東部地域会議の折にアジアの中蔓延国・地域の疫学と結核対策に関する調査・研究のネットワークが作られました。

今回5月13日にIUATLDフォーラムとして結核研究所で中蔓延国会議が開かれ、日本（結核研究所）、韓国、香港、マカオ、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、台湾の八つの国と地域からの参加者が各国の結核の疫学・対策の状況について発表し今後の活動について討議を行いました。会議には、厚生省結核感染症課課長補佐の葛西健氏、IUATLDのハンス・リーダー氏、WHO西太平洋地域事務局のドン・イル・アン氏もアドバイザーとして参加されました。

参加した国・地域では高齢者層で罹患率が高いことが一般に認められますが、特に日本、香港、シンガポール、台湾で高齢者の占める割合が高く、高齢者層と若年者層との罹患率の差が大きい傾向が強く見られました。また結核患者の高齢化により合併症を伴う結核が多いことが、日本、香港などから示されました。結核とHIVの合併例の増加については、マレーシアから報告がありました。外国人結核患者の占める割合は、日本と韓国を除く国では報告患者のおおむね10%以上を占めているようです。今回の発表を見ると、中

蔓延国の中でも、共通するものとそれ以外の国・地域に特徴的なものがあるようです。



このフォーラムは、結核研究所が事務局となりIUATLD東部地域の活動の一つとして継続されていく予定です。今後は、まず罹患率減少の純化傾向をより正確に分析するため、共通の調査方法で各国の疫学情報を整理・分析することになっていきます。将来的には、ヨーロッパのようにアジア中蔓延地域に共通の結核情報システムが作られることが期待されるでしょう。また、予防内服のあり方、ハイリスクグループへの集団検診、DOTなども今後の討議課題になっていくと考えられます。